

家畜堆肥を使用した山砂採取跡地植樹事業 実施報告書

緑の環・協議会 奥山 淳

1 全体計画

事業期間が約1か月と短いため、出来ることから実施した。山砂採取跡地に植栽することから、樹種をマツ材線虫病抵抗性アカマツ（斜面）とコナラ（平坦地）とした。

2 マツ材線虫病抵抗性アカマツの植栽と普及啓発パンフレットの配布

まず、3月15日（月）をアカマツ植栽日と決め、それまでに牛ふん堆肥（写真1、2）と苗木を調達し、普及啓発パンフレットを製作した。15日は、平日にもかかわらず9名が参加し、まず記念撮影し（写真3）、2年前に植栽したクロマツの横の斜面にアカマツ苗木を植栽した（写真4）。マツ類の成長に従ってハツタケやショウロが採集できることを期待している。

3 コナラ苗木の植栽と普及啓発パンフレットの配布

3月27日（土）は定例活動日で、参加者にパンフレットを配り、苗木の植え方と堆肥を施用する効果を説明し（写真5）、皆でコナラ苗木を植栽した（写真6～8）。

4 普及啓発パンフレットの製作

パンフレットは、①県内に点在する生育不適地（1ページ）、②山砂採取跡地における苗木の植栽方法（2ページ）、③家畜堆肥の施用効果（2ページ）、④緑の環・協議会の活動（3ページ）で構成され、写真を多く配置するものとなった。県内には自然あるいは人工的に出現した多くの生育不適地があり、家畜堆肥の積極的使用の可能性が伺えた。



写真1 堆肥の搬入



写真2 搬入された堆肥



写真3 家畜堆肥の奨励



写真4 アカマツ苗木の植栽



写真5 パンフレットの説明



写真6 コナラ苗木と牛ふん堆肥



写真7 コナラ苗木の植栽



写真8 コナラ植栽地全景